

○議長（堀内春美さん）

続いて、通告3番、8番 小林有紀子さんの一般質問を行います。

8番 小林有紀子さん。

○8番議員（小林有紀子さん）

これより大きく4項目にわたり質問をいたします。

初めに、学校体育館の防災機能強化についてお伺いいたします。一番目の質問として、学校体育館は子どもたちの生活、教育の場であり、災害時には地域の避難所としても重要な役割を担います。冷暖房空調の整備を加速させ、児童生徒に加え、避難者も安心して過ごせるようにすることが大切だと考えます。全国の公立学校体育館の空調設置率は、令和6年9月時点で18.9%、約2割にとどまっています。そこで、今年度の補正予算で文部科学省は、新たに学校体育館の空調整備に特化した臨時特例交付金を創設しました。その詳細についてお伺いいたします。

○議長（堀内春美さん）

教育総務課長 小林恵さん。

○教育総務課長（小林恵さん）

ただいまのご質問にお答えいたします。今回、文部科学省が創設した、空調設備整備臨時特例交付金は、児童生徒の学習環境の整備改善と災害時における体育館の避難所機能を強化することを目的に、学校体育館等への空調設備を整備するための交付金でございます。補助率は2分の1で、補助上限額は1体育館につき7000万円です。また対象期間は、令和6年度から令和15年度までの時限的な補助事業でございます。以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

小林有紀子さん。

○8番議員（小林有紀子さん）

私は平成30年12月の一般質問で、災害時には、災害時に体育館は避難所となるので、現在検討されている新町民体育館にエアコンの設置をと訴えてきました。今回政府は令和15年度までの、今お話をいただきました、令和15年度までの臨時特例交付金を新設し、整備のペースを2倍に加速するとしております。今詳細を説明していただきましたけれども、避難所となる公立小中学校の体育館への空調整備に対して、国庫補助率は2分の1と、地方負担分全額に地方債の充当が可能で、今年度の元利償還金については、その50%に地方交付税が講じられるものであります。そして、従来の空調の補助率、補助金の単価より約1.5倍の設定がアップすることになっています。断熱性の確保が要件になりますけれども、今回は先に空調設置工事を行ってから、後から断熱化工事をした場合も、両方が補助対象となるというのだそうです。それも建物の実情に応じた工法による屋根や、壁の遮熱塗装や、天井への遮熱シート貼付などの遮熱対策でも良いということで、比較的、短時間工事ができるようなものも対象となるということです。本当にこれほど今回国が予算を確保されたわけですから、本当に直ちに学校の空調整備を進めていくべきと私は考えます。

そこで2番目の質問になりますが、近年は全国的にあの猛暑日が増えており、学校施設に空調を整備する重要性が高まっています。2018年夏には、学校で小学生が熱中症で亡く

なるという痛ましい事故も起きています。また、激甚化、頻発化する自然災害において、避難所となる体育館に空調設備が整備されていないなどから、被災後の避難生活の疲労やストレスで亡くなる、災害関連死の割合も増加しています。国際赤十字が提唱する、最低基準のスフィア基準の項目でも、避難所については最適な快適温度、換気と保護を提供するとあります。このような問題意識から、安全安心な教育環境と、避難所の環境整備を加速することが求められます。本町の児童生徒に加え、災害時の避難者が安心して過ごせるよう、学校体育館への空調整備の早期実施についてお伺いをいたします。

○議長（堀内春美さん）

教育総務課長 小林恵さん。

○教育総務課長（小林恵さん）

ただいまのご質問にお答えいたします。現在、地球温暖化の影響により、児童生徒の体育館での学習活動が度々制限されています。また本町の学校体育館については、全ての体育館が避難所に指定されているため、空調設備の必要性が高まってきております。こうしたことから、創設された臨時特例交付金を活用した、空調設備の整備に向けて検討してまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

小林有紀子さん。

○8番議員（小林有紀子さん）

前向きな答弁をいただきました。ありがとうございます。本当に学校体育館、本町ではさらにスポーツも盛んでありますし、スポーツ少年団バレーやバドミントン、卓球などの団体とかスポーツ協会の皆さま、本当に多くの町民の方々が体育館を利用されます。本当にあの快適に安心してスポーツを楽しまれる環境整備も必要だと思います。本当に言った熱中症対策っていうのは本当にまた必要不可欠だと思っておりますので、ぜひとも学校体育館への空調整備の実施を進めていただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

それでは3番目の質問としまして、空調設備は、災害時の停電を想定し、ガス発電機やガス空調設備を検討するなど、空調効率の最適化や導入時のコスト、ランニングコストの比較や、脱炭素化に資する設備などを比較検討し、導入する考えについてお伺いいたします。

○議長（堀内春美さん）

教育総務課長 小林恵さん。

○教育総務課長（小林恵さん）

ただ今の質問にお答えいたします。空調設備を整備する際には、空調効率の最適化を図るため、断熱性を確保するための工事も検討してまいりたいと考えております。また、ランニングコストや脱炭素化に資する整備設備なども、あわせて比較検討してまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

小林有紀子さん。

○8番議員（小林有紀子さん）

ぜひ検討していただきたいと思います。平成12年の東海豪雨によって甚大な被害を受け

た、愛知県清須市では令和4年、災害対策として市内全ての小・中学校の体育館のLPガスを用いた空調設備を一斉導入したそうです。何よりも、いざ災害というときに確実に使えることを重視したとして、大規模災害によって電線や都市ガス配管の断絶が起きてしまうとエネルギーとして使えなくなる。LPガスであれば、たとえ被災が広範囲で及んでも、避難所が最も必要とする最初の数日間、安定的に稼働できると考えたそうです。現在、猛暑時の体育や卒業式などが、快適になったと学校現場から喜ばれているそうです。教室のエアコンが故障したときには、体育館で授業を行うこともあるそうです。また、近隣自治体の学校関係者からは、練習試合をエアコンのある清州してやりたいという声もあるそうです。さらに、防災に力を入れている清須市では、地域ごとに自主防災訓練を実施することが恒例で、令和5年度からはLPガスの災害対応バルクを活用した、炊き出し訓練を開始しています。避難所である体育館のすぐそばで調理ができる利便性を実感しているそうです。また、住民の中には、人工呼吸器などの医療的ケアが必要で、災害時の不安を抱えている人もいますが、体育館で電源が使えると職員が自信を持って答えているそうです。導入以来、各学校の体育館は避難所としての信頼性を増し、自主防災訓練も体育館を中心に実施されているそうです。ぜひとも住民の命を守るため、導入の方をよろしく願います。

それでは、大きな2項目めとしまして、上下水道施設の耐震化について、これについては、先ほど小林和良議員と共通の質問がありましたので、先に通告の小林議員の質問の中であわせてお聞きしていただきました。その他の質問で一つになりましたが、お伺いしたいと思います。まず1月28日の埼玉県八潮市の交差点で、下水道管の破損により道路が陥没し、トラックが転落する事故が発生しました。一刻も早い救助と復旧を願ってやみません。復旧は長期化し、地域住民の生活に大きな影響が出ております。二度と同じような事故を起こさないための再発防止策が重要です。そして、昨年元旦に起きた能登半島地震で、上下水道管の破損で大きな断水となり、地震による断水は5月末にようやく解消、9月の大雨による断水は、12月20日に解消となったそうです。しかし、輪島市、珠洲市の建物倒壊地域などは現在も断水が192戸あり、大変大きな被害となっております。能登半島地震の状況を受け、国では、上下水道施設の耐震化状況に関する緊急点検結果を踏まえた、上下水道耐震化計画の策定を要請していますが、進捗状況をお伺いいたします。

○議長（堀内春美さん）

上下水道課長 長澤康君。

○上下水道課長（長澤康君）

ただいまのご質問にお答えします。上下水道耐震化計画は、災害に強く持続可能な上下水道システムの構築に向け、避難所等の重要施設に接続する上下水道管路等について、上下水道一体で耐震化を推進するための計画であり、国土交通省が全ての水道事業者等と下水道管理者に対して、策定の要請を行ったものです。これを受け、本町におきましても、策定期限の令和7年3月末日までに上下水道耐震化計画を策定することとしております。以上です。

○議長（堀内春美さん）

小林有紀子さん。

○8番議員（小林有紀子さん）

再質問ですが、耐震計画3月末までに策定とのことですがけれども、緊急点検はどのように点検したのですか。その結果の詳細もお伺いしたいと思います。

○議長（堀内春美さん）

上下水道課長 長澤康君。

○上下水道課長（長澤康君）

ただいまのご質問にお答えします。緊急点検とありますけれども、これ緊急点検というのは、町の耐震化率がどのくらい進んでるかという調査的な点検でございました。以上です。

○議長（堀内春美さん）

小林有紀子さん。

○8番議員（小林有紀子さん）

再質問ですが、それでは今回緊急点検はしていないということで、よろしいでしょうか。

○議長（堀内春美さん）

上下水道課長 長澤康君。

○上下水道課長（長澤康君）

ただいまのご質問にお答えします。職員が直接現地に行つて点検する等のことは行つておりません。以上です。

○議長（堀内春美さん）

小林有紀子さん。

○8番議員（小林有紀子さん）

再質問ですが、国土交通省からの計画の要請は、緊急点検を踏まえた計画ですよね。国が何のための調査か、能登半島地震の状況を受けて緊急点検を踏まえた計画です。能登半島地震での上下水道の破損の状況を見れば、もし富士川町に南海トラフ地震が起きたらと想定してみてください。南海トラフ地震は30年以内に発生する確率は80%です。先ほど本町においては、計画の策定3月末までと言われましたが、緊急点検を行つてからの策定ではない、古い情報での計画を策定して報告されるのでしょうか。お伺いしたいと思います。

○議長（堀内春美さん）

上下水道課長 長澤康君。

○上下水道課長（長澤康君）

ただいまのご質問にお答えします。緊急点検結果というものは、全て最新の情報を国の方に報告しているものでございます。

○議長（堀内春美さん）

小林有紀子さん。

○8番議員（小林有紀子さん）

最新の情報っていうのはいつの情報ですか。先ほど、今回点検してないということですが、ここで報告、3月末に報告する、策定する計画の検査の結果というのは、いつの時点での内容になりますか。

○議長（堀内春美さん）

再質問でよろしいですか。

上下水道課長 長澤康君。

○上下水道課長（長澤康君）

ただいまのご質問にお答えします。最新の情報といたしますのは、令和5年度末の時点の情報でございます。

○議長（堀内春美さん）

小林有紀子さん。

○8番議員（小林有紀子さん）

令和5年度末ということですが、ずいぶん今だいぶそれから経っていますけれども、なぜこの国の能登半島地震の状況を受けての、国の緊急点検結果を踏まえた上下水道耐震計画の策定が要請されているわけですから、それに対して、やはり一番何を求めているか、国が何を求めているかというのをと考えると、令和5年度に出た数値だけを載せて策定して終わり、ということではないと思いますけれども、そこらへんしっかり点検を行っていただきたいと思います。本町の休所施設は、事業施設に接続する耐震化が下水道課が50%台、上水道の耐震化は10%と聞いていますけれども、低い耐震化率は災害時に避難所や病院で断水が発生し、トイレが使用不能になる可能性が高いことを示しています。しっかりと耐震計画を策定して、命の水ですから町民の皆様が安心安全な水の確保となるよう、調査に基づいて取り組んでいただきますよう、よろしくお願いいたします。

それでは、大きな3項目として、避難所の環境整備についてお伺いいたします。公明党としてこれまで大規模災害時の避難所環境の改善について、特にTKB、トイレキッチンベッドの迅速配備やスフィア基準の導入を訴えてきました。1点目ですが、政府は昨年12月に、避難所の運営指針を改定しました。避難者が尊厳ある生活を営める最低基準を示すスフィア基準を取り入れ、石破総理も11月の臨時国会の所信表明演説で、発災後、早急に全ての避難所でスフィア基準を満たすことができるよう、事前防災を進めると表明しました。これまでトイレは50人に1基だったものを20人に1基、さらにトイレの比率を女性用が男性用の3倍に、入浴施設も50人に一つの基準を示しました。また、避難所内の1人当たりの移住スペースを最低3.5平方メートル、畳2畳分とし、ダンボールベッドなどが置ける広さの確保を目指すものです。トイレキッチンベッドの迅速配備やスフィア基準、被災者が尊厳ある生活を営める最低基準の導入について、町の取り組みをお伺いいたします。

○議長（堀内春美さん）

防災交通課長 長田博幸君。

○防災交通課長（長田博幸君）

ただいまのご質問にお答えします。避難所におけるスフィア基準を満たすためには、十分な資源や設備、また職員やボランティアに対する高度な研修や教育が必要となります。さらに、被災場所に応じて開設される避難所の位置も変わるため、その都度、地域のニーズに応じた柔軟な対応も求められます。こうしたことから、現在参加している甲府市を中心とした県央ネット山梨の構成市町や、県内市町村の先進的な取り組み事例等を情報収集するとともに、トイレ事業については計画的な配備を進めておりますので、引き続き避難所の整備、環境整備につつまして取り組んでまいります。以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

小林有紀子さん。

○8番議員（小林有紀子さん）

再質問ですが、いつ起きてもおかしくない、来るべき災害への備えは最重要です。町民の命と暮らしを守るため、48時間以内に同水準が満たされるような避難所の環境改善を積極的に進めるべきです。今おっしゃった中央ネットをですね、甲府市を中心として新たに加わったネットのところに、私達富士川町も加わったわけですがけれども、この構成市町が防災対策が本町より進んでおります。調査研究をしていくとの今答弁でしたけれども、1日も早く進めるための調査研究を積極的に実施するというので、今の答弁は解釈してよろしいでしょうか。

○議長（堀内春美さん）

防災交通課長 長田博幸君。

○防災交通課長（長田博幸君）

ただいまのご質問にお答えします。県央ネット山梨につきましても、それぞれ分科会が用意されてございます。防災に関しても、この分科会が明年度から動きいたしますので、その中で当然この基準についても出てくるものと思いますので、そうした中で情報収集の方を進めてまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

小林有紀子さん。

○8番議員（小林有紀子さん）

わかりました。しっかりと調査研究をしていただいて、連携をとっていただきたいと思えます。

再質問ですが、その、このスフィア基準のこの理念を考える中で、本町の避難所など指定避難所、緊急指定避難所、指定避難所、福祉避難所とあるわけですがけれども、避難所環境の整備に向けて見直しが必要ではないでしょうか。8日の山日新聞の記事に、避難所設備の準備状況の調査で、富士川町が更衣室も授乳室もオムツ替えスペースも間仕切りに対してもわからないとの回答が掲載されておりました。大変に遅れているのではないのでしょうか。しっかりと取り組みを進めていただきたいと思えますけど、その点いかがでしょうか。

○議長（堀内春美さん）

防災交通課長 長田博幸君。

○防災交通課長（長田博幸君）

ただいまのご質問にお答えします。避難所環境につきましては、町としても大変危惧しておるところでございます。住民が第一義として避難していただく場所というのは、住民の皆さまに最も身近である地区公民館であると考えております。こうしたところの環境整備等につきましても、今後十分に研究してまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

小林有紀子さん。

○8番議員（小林有紀子さん）

早急によりしくお願いいたします。スフィア基準は、被災者の権利と被災者支援の最低基準を定めた国際基準です。30年前の阪神淡路大震災の避難所生活を経験した人が避難所生活で困ったこと、それから昨年 of 能登半島地震でも、今でも1位はトイレの問題です。水が出ない、流せないための大便の山と悪臭、そして、2011年の東日本大震災において、女性や子どもへの性被害がありました。避難所だから我慢しなければならない、仕方がないといった考えを、意識を変えるのがスフィア基準です。被災者は尊厳ある生活を営む権利があり、支援を受ける権利がある。損害による苦痛を減らすための、実行可能なあらゆる手段をとらないといけないとあります。どのような災害であれ、被災者としての権利を脅かされて声を上げられない人がいないか、安心安全な避難生活を過ごし、日常生活へと戻れるように取り組みを進めていただきたいと思います。ぜひとも、それぞれの避難所の課題を明確に、地元の方々と共有していただきながら、進めていただきますよう、また甲府市や中央市や、あとお隣の市川三郷なども本当に進み防災に進んでおりますので、ぜひそういう市町との連携と、県内市町村、また全国の先進事例を参考にいただきながら、取り組んでいただきますようよろしくお願いいたします。

それでは2点目の質問は、内閣府は1月、全国の災害用物資、機材等の備蓄状況に関する調査を実施し、調査結果を公表しました。本町の福祉や女性の視点での備蓄の対応についてお伺いいたします。

○議長（堀内春美さん）

防災交通課長 長田博幸君。

○防災交通課長（長田博幸君）

ただいまのご質問にお答えします。災害時における備蓄については、高齢者や女性など多様な当事者のニーズに対応することが重要であると認識しているところであります。このため本町では、既に一定量の備えのある子ども用パンツ等に加え、大人用の紙パンツ、女性用の生理用品についても備蓄することとし、その必要経費を令和7年度当初予算に計上したところであります。今後も福祉や女性の視点を踏まえた計画的な備蓄の充実を図るよう努めてまいります。以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

小林有紀子さん。

○8番議員（小林有紀子さん）

再質問ですが、明年度の当初予算に、計上したということで購入するとのことですが、公表された50品目の備蓄品の中で、本町は8品目しか備蓄として記入されていませんでした。生理用品、大人用オムツ、子ども用オムツ、トイレトペーパー、簡易トイレなど富士川町では備蓄していないとのご発表には大変に残念に思いました。備蓄品を選択する段階で、女性の意見が全く加わっていなかったのでしょうか。その点お聞きしたいと思います。

○議長（堀内春美さん）

防災交通課長 長田博幸君。

○防災交通課長（長田博幸君）

ただいまのご質問にお答えします。女性の意見というものが全く加わってなかったかということですが、この備蓄品につきましては、当初より防災交通課の担当の中で、協議を

しながら当初予算の要求に向けて話をし、備蓄をしていったところでございますので、これまでににつきましては、女性の意見が少なかったということは間違いないことでございますので、今後につきましても、こうしたところを改善をできるように努めてまいります。以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

小林有紀子さん。

○8番議員（小林有紀子さん）

ぜひともよろしく願います。私が備蓄を訴えさせていただいた、乳幼児の液体ミルクは、児童センターで備蓄していただいているはずですが、子育て支援課の備蓄は防災課ではわからないのでしょうか。せっかく備蓄しているのに、公表されなかったところもありますので、それぞれの担当課の備蓄に関しても防災課でしっかり把握していただき、町の防災備蓄に関して、一元的な把握することはできないのでしょうか。すいません、再質問で願います。

○議長（堀内春美さん）

防災交通課長 長田博幸君。

○防災交通課長（長田博幸君）

ただいまのご質問にお答えします。子育て支援課の方で備えております、女性用、子ども用の備品につきましては、それぞれ富士川町の児童センター、かじかざわ児童センターで配備しているものにつきましては、防災交通課の方でもその一覧をいただくこととしておりまして、共有するように努めてまいります。以上です。

○議長（堀内春美さん）

小林有紀子さん。

○8番議員（小林有紀子さん）

ぜひともよろしく願います。今後把握できるよう、よろしく願います。

3点目は、女性の視点を取り入れた避難所運営の取り組みについて、避難所マニュアルとは別に作成する考えについて、お伺いいたします。

○議長（堀内春美さん）

防災交通課長 長田博幸君。

○防災交通課長（長田博幸君）

ただいまのご質問にお答えします。女性の視点を取り入れた避難所運営の考えは、避難所における安全性や、快適性の向上にとって、非常に重要であると認識しているところであります。このため、本町の避難所開設運営マニュアルにおいては、避難者の中から女性の代表や地域防災リーダーを含めた中心的な人物を選定し、グループリーダーとして活躍していただくことを明記しております。こうしたことから、現在の避難所開設運営マニュアルとは別にマニュアル作成は考えておりませんが、引き続き地域の中で活躍が期待される女性のリーダーの育成に努めてまいります。以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

小林有紀子さん。

○8番議員（小林有紀子さん）

はい。女性の防災リーダーの育成を進めていただくことは、ぜひともおおいに進めていただきたいところでありますけれども、災害時の避難所では女性の生活スペースの配慮や、工夫するなど女性や子どもへの性暴力、DVを含めた暴力の防止を行うことや、女性用品を確保することなど、女性の視点を踏まえた配慮が必要であります。

そこで、甲斐市では男女共同参画の事業の一環として、女性の視点を取り入れた避難所運営の留意点を紹介したマニュアル、女性の視点を取り入れた避難所運営の取り組みについてを、避難所マニュアルとは別に作成し、自治会等へ展開を行っているそうです。マニュアルでは、実際に過去に被災した被災者の意見を紹介した上で、具体的な対応例を掲載、作成したマニュアルは、市内の自治会長や市の女性団体連絡会の学習会で配布している他、甲斐市男女共同参画推進委員会において、小学生の親子を対象とした防災教室を開催し、家族で災害対策を考える中で、マニュアルを生かしてもらえるように伝えているそうです。そして活用しているそうです。甲斐市はマニュアルの作成によって、自治会や女性団体において、女性の視点の避難所運営の関心が高まり、更なる研修の機会に繋がり、女性が地域で活躍できる環境作りに繋がっているそうです。今後も女性の活躍を推進することで、災害時における避難所の生活環境も向上できるように取り組みを進めたいと甲斐市の方でも考えているそうです。本町でも先進事例を参考に、取り組みを進めていただきたい。今、別にマニュアルを考えていないということでしたが、こういう幅広い女性の活躍、地域に活躍できる環境整備にも繋がるということで、先進事例を参考に、ぜひとも取り組みも検討していただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。それでは大きな4項目め、

○議長（堀内春美さん）

質問の途中ですが、ここで暫時休憩といたします。

○議長（堀内春美さん）

休憩を解いて再開します。小林有紀子さん。

○8番議員（小林有紀子さん）

大きな4項目めは、まちの観光資源と戦略的な情報発信についてお伺いいたします。1点目は、私は昨年12月の一般質問で、今後の富士川町観光振興計画には、富士川まちづくり公社と連携した取り組みを、と質問させていただきました。将来的には、まちづくり公社で観光情報を担っていただくことを期待するわけですが、観光はまちづくりの重要な施策であります。そこで、富士川町の観光資源の戦略的な情報発信の取り組みについてお伺いいたします。

○議長（堀内春美さん）

産業振興課長 望月奈緒美さん。

○産業振興課長（望月奈緒美さん）

ただいまのご質問にお答えいたします。本町は豊かな自然や歴史、文化などの魅力的な観光資源を有しております。これらの観光資源について、富士川町観光振興計画に位置づけている、SNSやホームページ、広報誌を活用した情報発信、観光雑誌や新聞への広告掲載、各種イベントへの出展などの計画的な情報発信を行い、本町の知名度向上と誘客に取り組ん

でおります。今後も観光客の誘致に繋がる、より効果的な情報発信に取り組んでまいります。  
以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

小林有紀子さん。

○8番議員（小林有紀子さん）

再質問ですが、これまでの情報発信の内容は承知しておりますけれども、特段変わっているようには思いませんけれども、本町の知名度向上や観光客の誘客に取り組んでいるとのことですが、近年でいえば、コロナ禍前と比べて現在の観光客数にはどのような効果が表れているのでしょうか、お伺いしたいと思います。

○議長（堀内春美さん）

産業振興課長 望月奈緒美さん。

○産業振興課長（望月奈緒美さん）

ただいまのご質問にお答えいたします。本町の観光客数はコロナ禍においては大幅に減少いたしました。現在では年間70万人以上と、コロナ禍前と同じ水準まで戻っております。また、道の駅富士川においては、年間来客数が48万人を超え、コロナ禍前と比べて、8万人以上の増加となっております。今後もより多くの観光客を誘致できるよう、効果的な情報発信に努めてまいります。以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

小林有紀子さん。

○8番議員（小林有紀子さん）

効果的な情報発信に努めるとのことですが、そこがどのような効果的な情報発信に努めるのが、最も大事なポイントです。観光客数はコロナ禍以前と同じ水準まで戻っているとのことですが、これまでの同じ水準では戻ってきたという段階ですから、ある意味当然の流れです。道の駅富士川にお客様が増加していることは、イベントや日曜市の開催など、本当にSNSでも情報発信をしておりますその効果とか、静岡からのお客様が増えたり、全国でも有名になっている道の駅ですので、従業員の方々も大変にご努力をされているからだと思います。道の駅に来て、そこから町内にどれだけの人を呼び込むかです。

再質問ですが、若者や外国人の方々には、インスタグラムやXなど、動画での情報発信など、様々なツールを活用して富士川町のどこに行ってみたい、何をしてみたい、と思って来てもらえるような情報を発信できるかだと思います。本町の観光資源の魅力を戦略的に発信すれば、コロナ禍以前の何倍もの観光客の誘致ができると私は確信しております。富士川町には素晴らしい観光スポットが歴史や文化の魅力がたくさんあります。しかし、町のSNSではホームページを見ると、富士川町の魅力を効果的に発信されているとは言えないと思います。今は情報をSNSで調べて、多くの若者や外国人がインバウンドで、日本に来る時代です。町のインスタグラムを発信しているのは政策秘書課だと思いますが、秘書課と連携をして、ホットな情報を発信していただきたいと思いますが、具体的に効果的な情報発信とはどのように取り組むお考えでしょうか？

○議長（堀内春美さん）

産業振興課長 望月奈緒美さん。

○産業振興課長（望月奈緒美さん）

ただいまのご質問にお答えいたします。現在の情報社会において、SNSでの情報発信は重要であると考えております。このことから、町のSNSアカウントがより多くの目に触れるよう、ホームページなどに掲載する方法を工夫し、イベントなどでの周知活動にも力を入れてまいります。また、SNSのフォロワーを増加させるために、更新頻度を上げるとともに、ユーザーの関心を引く情報発信に努めてまいります。以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

小林有紀子さん。

○8番議員（小林有紀子さん）

ぜひ取り組んでいただきたいと思います。例えば、これからだと、大法師桜まつりの期間は動画で撮影をして、積極的に更新の頻度を上げて、その情報を多くの皆さんが見ている、町の公式LINEにもお知らせして、ぜひフォローしてくださいとか、いかに大勢の人に見てもらおうか、富士川町に行ってみたいと思わせる、見方が必要だと思います。よろしく願いいたします。

2点目は、町のホームページがリニューアルしましたがけれども、トップページには真ん中に暮らし町政、観光、ふるさと納税の3つのカテゴリーにわかれている、真ん中に観光の情報が見られるようになっていました。それを開くと、今度は6つのカテゴリーにわかれています。そこまでは写真も素晴らしいですし、とても見やすくなっていますが、そこから先の具体的な情報が観光資源の魅力を発信したいとの意気込みが感じられません。写真や文章の掲載の仕方がとても残念に思っていますが、町のドローンを活用して動画に力を入れるとか、ホームページの観光の情報発信の強化についてお伺いをいたします。

○議長（堀内春美さん）

産業振興課長 望月奈緒美さん。

○産業振興課長（望月奈緒美さん）

ただいまのご質問にお答えいたします。観光情報の発信につきましては、ホームページにおいても強化に努めております。しかしながら、これまでの写真や動画の掲載では、必ずしも本町の魅力を十分に引き出せていないのが現状です。そのため、より魅力的な写真や動画の掲載に努め、ユーザーの関心を引くような、見応えのある充実したホームページの作成に取り組むとともに、SNSとの連携により、タイムリーな情報発信にも力を入れてまいります。今後もホームページを通じて、本町の魅力を効果的にPRし、観光客の誘致に繋げていきたいと考えております。以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

小林有紀子さん。

○8番議員（小林有紀子さん）

再質問ですが、具体的にどのように取り組むの取り組むのか、今までと同じ状況であれば、内容のレベルアップには繋がらないと思います。ぜひ、戦略的な情報発信をするための掲載の仕方の研修や、他市町村の観光に力を入れているところを参考にして、アイデアを取り入れるなどを研究していくなど、情報発信のスキルアップが必要と考えますが、具体的にどのように取り組

むのか、お伺いしたいと思います。

○議長（堀内春美さん）

産業振興課長 望月奈緒美さん。

○産業振興課長（望月奈緒美さん）

ただいまのご質問にお答えいたします。具体的な方法としましては、ホームページやSNSの更新頻度を上げ、タイムリーな情報発信に努めてまいります。加えて、ホームページやSNS制作、カメラ撮影などの研修を受講するなどをして技術を学び、より魅力的な情報発信ができるよう取り組んでまいります。以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

小林有紀子さん。

○8番議員（小林有紀子さん）

ぜひ、積極的に取り組んでいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

再質問ですけれども、町の観光資源の多くは、中山間地域にあります。昨年、中山間地域に農村RMOの協議会が菴米区、平林区、穂積区が合同で、そして私の住んでおります、中部区、五開区が合同で、県下初で設立をされました。農村RMOの取り組みにおいても、多くの素晴らしい観光資源の中、その地元の情報を発信することで、更なる観光客の誘致に繋がると考えます。ぜひとも、農村RMOにおいてホームページを開設し、協議会と連携して情報を発信することで、更なる情報発信の強化に繋がるとは思いますが、お考えをお伺いしたいと思います。

○議長（堀内春美さん）

産業振興課長 望月奈緒美さん。

○産業振興課長（望月奈緒美さん）

ただいまのご質問にお答えいたします。農村RMOの事業の一つとして、地域資源の活用を進めております。この取り組みの中で、地域の魅力的な観光資源を情報発信していくことは、中山間地域の活性化を図る上で重要であると考えております。こうしたことから、来年度から農村RMOの取り組みを広く周知する手段として、農村RMOのホームページでの積極的な情報発信を推進することで、地域とともに、町の魅力を広く伝えてまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

小林有紀子さん。

○8番議員（小林有紀子さん）

はい、積極的に推進していただけるということで、よろしくお願いいたします。現在、中部横断自動車道の山梨、静岡間の全線開通を契機に、令和4年に県と峡南5町の連携による、峡南地域ネクスト共創会議が設置され、観光振興に取り組んでいますが、峡南5町における主な観光資源として一覧で明記されているのが、全てこの農村RMOの協議会の地域内にある、自然や歴史や観光イベントであります。この事業は、令和7年度までの戦略ですが、富士川町の観光資源の魅力を体感、実感してもらえるよう、効果的な戦略的な情報発信に力を入れていただきますよう、よろしくお願いいたします。以上で私の一般質問を終了いたします。